

令和6年度 「家庭教育に関する調査」

# グラフでみる 秋田の家庭教育

令和元年度実施の前回調査と比較しながら

このリーフレットは、秋田県教育委員会が令和6年度に実施した「家庭教育に関する調査」の集計結果について、令和元年度に実施した前回の調査と比較しながら紹介するものです。

近年の家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加するなど家庭教育を行う上での課題が指摘されている現状を踏まえ、幼児期から思春期までの家庭教育の状況や、保護者の意識及び実態等について紹介しています。

秋田県教育委員会

## 1 調査の目的

近年の家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加するなど家庭教育を行う上での課題が指摘されている現状を踏まえ、幼児期から思春期までの家庭教育の状況や保護者の意識及び実態を把握する。

## 2 調査時期

令和6年10月18日（金）から11月8日（金）まで

## 3 調査の対象および内容

県内の幼稚園・保育所及び認定こども園、小学校、中学校、高等学校の4歳、7歳、10歳、13歳、16歳にあたる幼児・児童・生徒の保護者に対して、家庭教育に関する意識・実態を調査した。

### （1）調査対象者内訳

年齢	調査数	回答者数
4歳	177人	145人
7歳	174人	146人
10歳	185人	145人
13歳	169人	149人
16歳	193人	131人
計	898人	716人

※R元回答者数 845人

### （2）回答率

79.7%

### （3）調査回答者の内訳



### （4）調査回答者の年齢

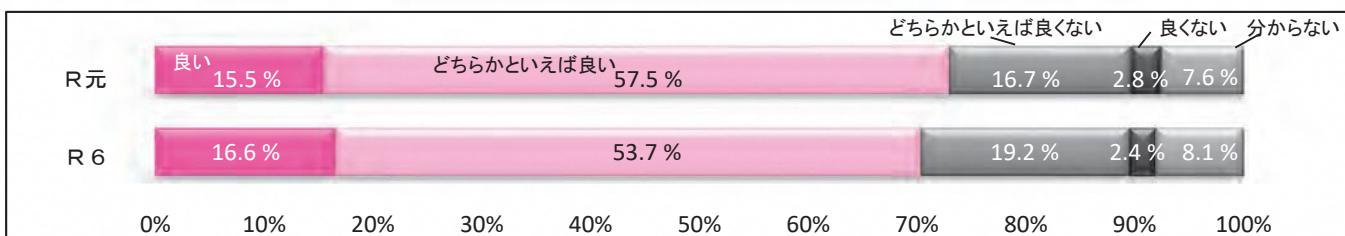


## 4 主な調査結果とコメント

※ pt = ポイント

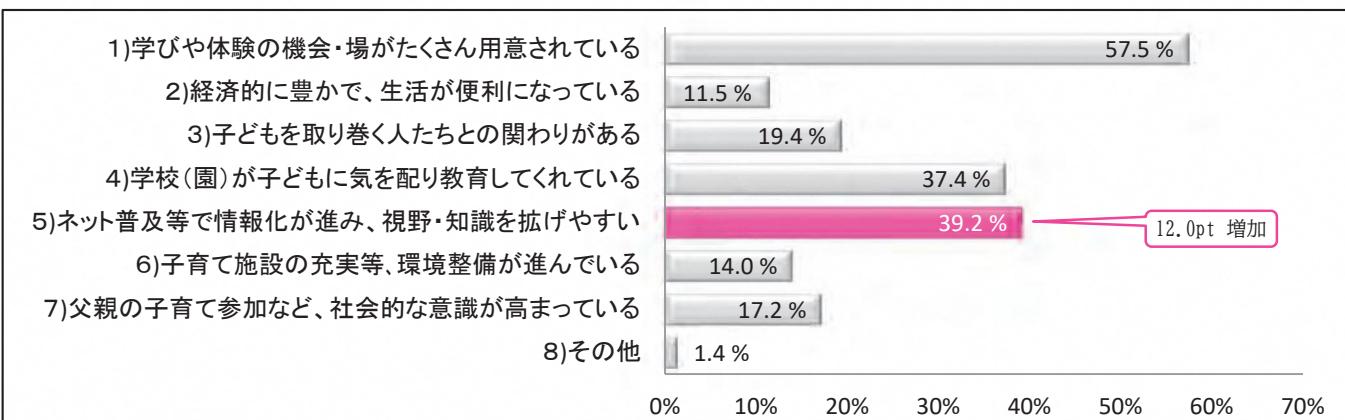
※ 問1-2・問1-3・問3・問4-2・問5-2・問5-3・問6-2の棒グラフの色分けは、前回調査（R元）と比較し増減幅が10.0ptを超えるものについて、増加したものを赤、減少したものを濃い灰色で表した。それ以外は薄い灰色で表した。

### 問1-1 あなたは現在の子どもを取り巻く環境について、総合的に見てどのように感じますか。



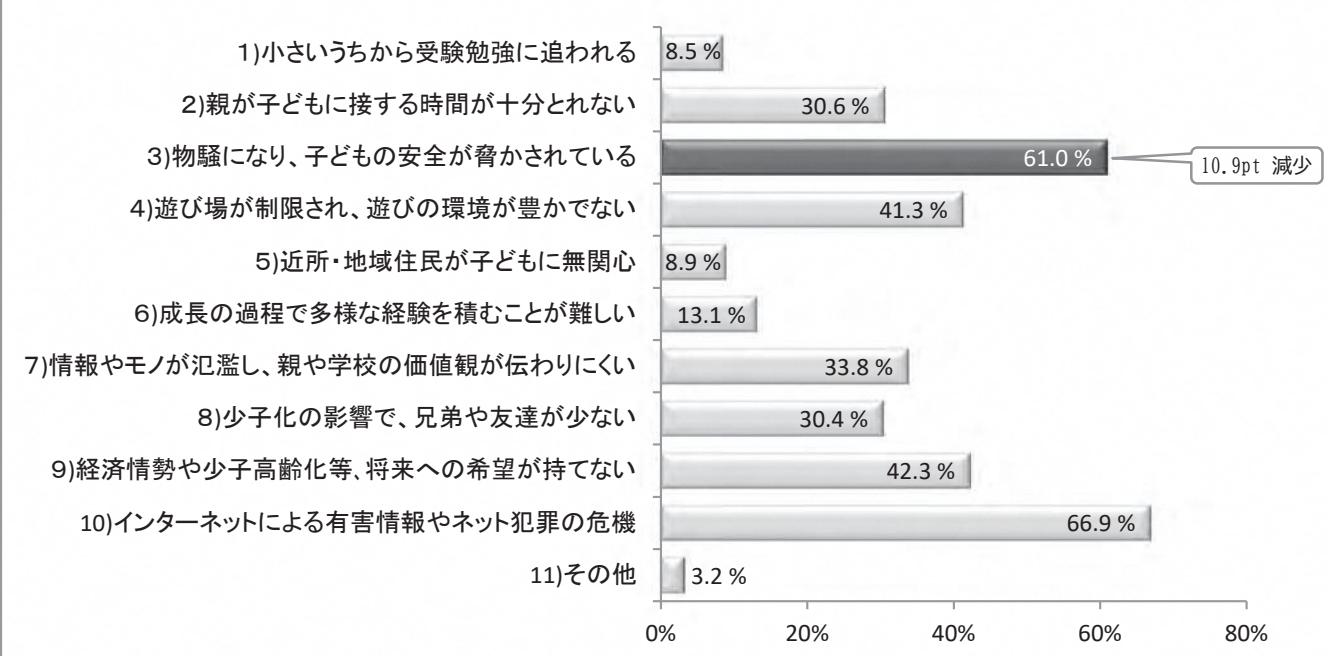
「良い」「どちらかといえば良い」と答えた割合 【R元】73.0% → 【R6】70.3%  
★「子どもを取り巻く環境」を肯定的に捉える保護者が、依然として70%を超えている。

### 問1-2 子どもを取り巻く環境が「良い」と感じる点（複数回答）



「5)ネット普及等で情報化が進み、視野・知識を広げやすい」【R元】27.2% → 【R6】39.2%  
★「ネット普及等」を肯定的に捉える保護者が増加している。

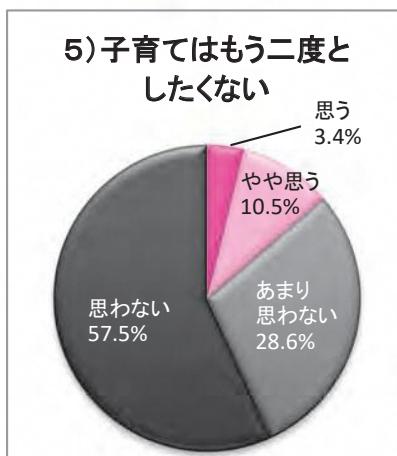
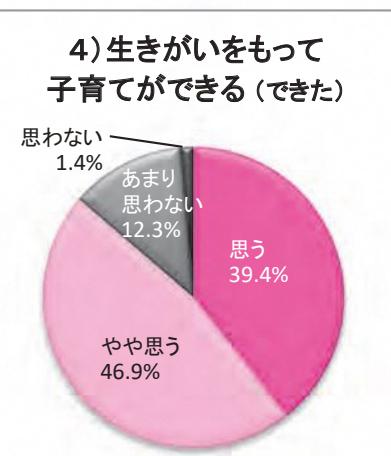
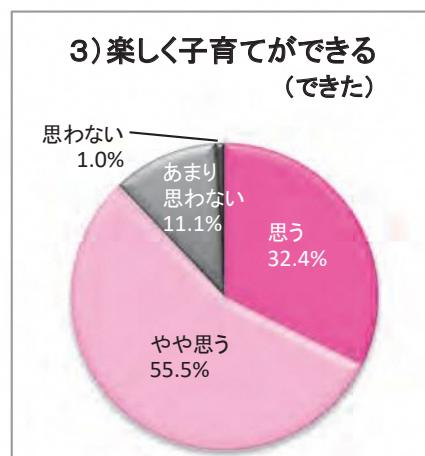
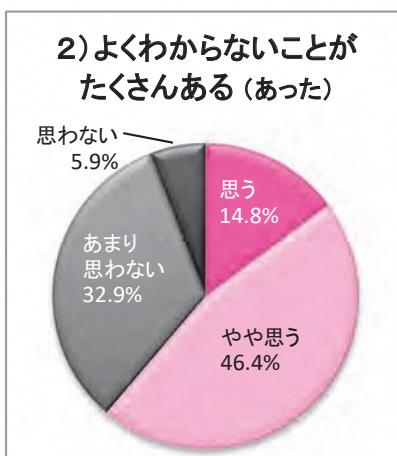
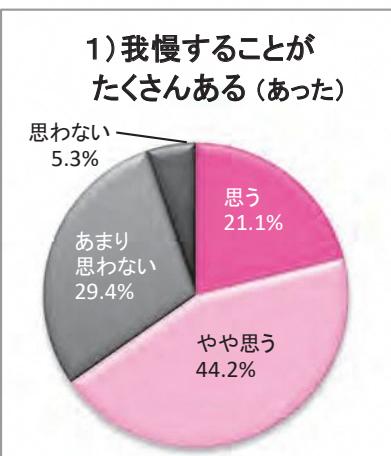
### 問1－3 子どもを取り巻く環境が「良くない」と感じる点（複数回答）



「3)物騒になり、子どもの安全が脅かされている」【R元】71.9% → 【R6】61.0 %

★「子どもの安全」に不安を感じる保護者が減少してはいるものの、依然として60%を超えてい。

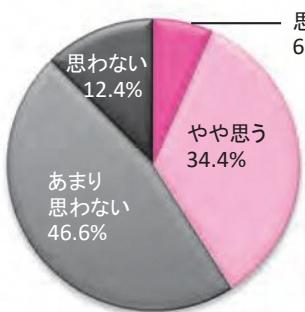
### 問2 あなたご自身の子育てについて、次のように思うことはありますか（ありましたか）。



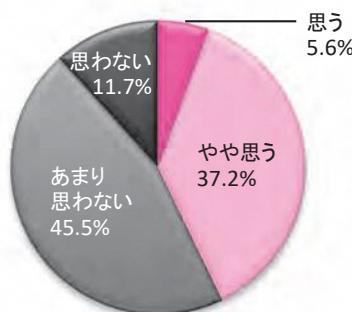
★「思う・やや思う」の割合に、大きな変化はなかった。

1)我慢することがある 【R元】66.0% → 【R6】65.3%
2)よくわからないことがたくさんある 【R元】59.0% → 【R6】61.2%
3)楽しく子育てができる 【R元】87.0% → 【R6】87.9%
4)生きがいをもって子育てができる 【R元】85.0% → 【R6】86.3%
5)子育てはもう二度としたくない 【R元】14.0% → 【R6】13.9%

### 6) 厳しくしすぎた



### 7) 甘やかしすぎた



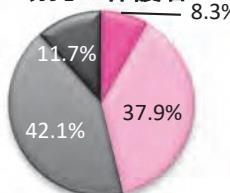
「6) 厳しくしすぎた」について… 「思う」「やや思う」の変化  
【R元】38.0% → 【R 6】41.0 %

★「厳しくしすぎた」と感じている保護者の割合は、小学生で前回調査から7.4pt増加して47.4%となった。

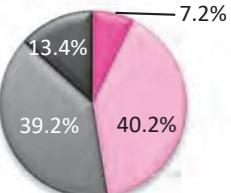
「7) 甘やかしすぎた」について… 「思う」「やや思う」の変化  
【R元】38.0% → 【R 6】42.8 %

★「甘やかしすぎた」と感じている保護者の割合は、中学生で前回調査から20.3pt増加して49.3%となった。

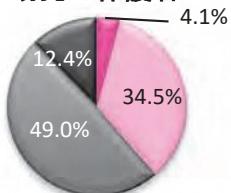
幼児の保護者



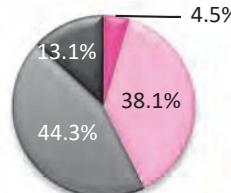
小学生の保護者



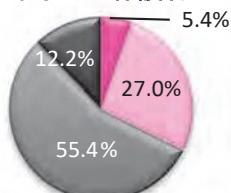
幼児の保護者



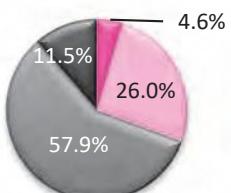
小学生の保護者



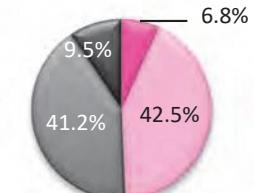
中学生の保護者



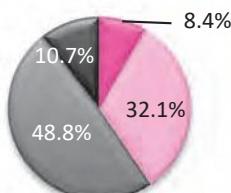
高校生の保護者



中学生の保護者



高校生の保護者



### 問3 あなたご自身の子育てについて、力を入れている（入れてきた）と思うことがありますか。

★「思う」「やや思う」と答えた保護者の割合

1) なんでも家族でよく話し合う

84.1 %

2) 子どもの手本となる生き方や考え方を示す

67.6 %

28.4pt 減少

86.4 %

3) 早寝早起き朝ごはんなど、良い生活習慣

95.9 %

4) ルールやきまりの大切さをしっかり教え、守らせる

97.5 %

5) 良いことをしたときは、しっかりとほめる

95.1 %

6) 悪いことをした時は、厳しく叱る

94.6 %

7) 一緒に遊んだり出かけたり、家族と一緒に楽しむ

72.8 %

8) 本の読み聞かせや、勉強を見てやっている

94.3 %

9) 年中行事や誕生日など、家族の行事を大切にする

96.2 %

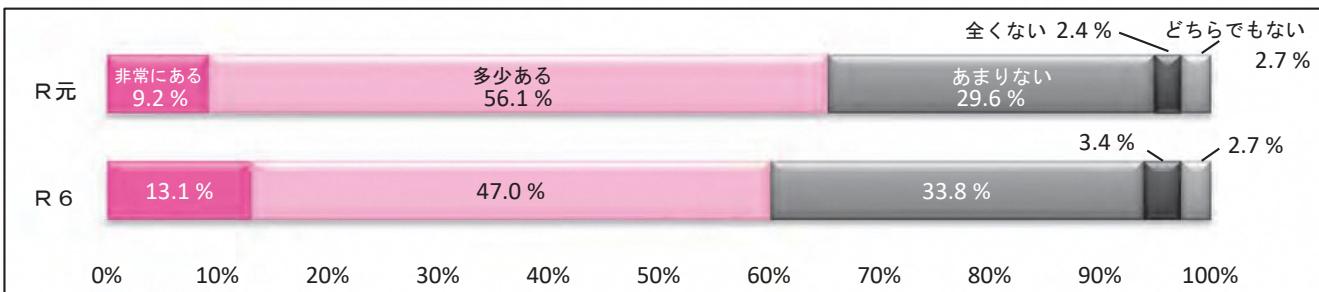
10) 子どもが将来の夢を叶えられるよう、応援し、励ます

0% 20% 40% 60% 80% 100%

★前回調査と同様、どの項目も概ね高い割合で、自らが行っている（きた）子育てを肯定的に捉えている。

★多くの項目においてほぼ変化がなかった中で、「2) 子どもの手本となる生き方や考え方を示す」については、96.0%から28.4ptの減少が見られた。

#### 問4-1 あなたは家庭での教育（しつけ等）について、悩みや不安がありますか。

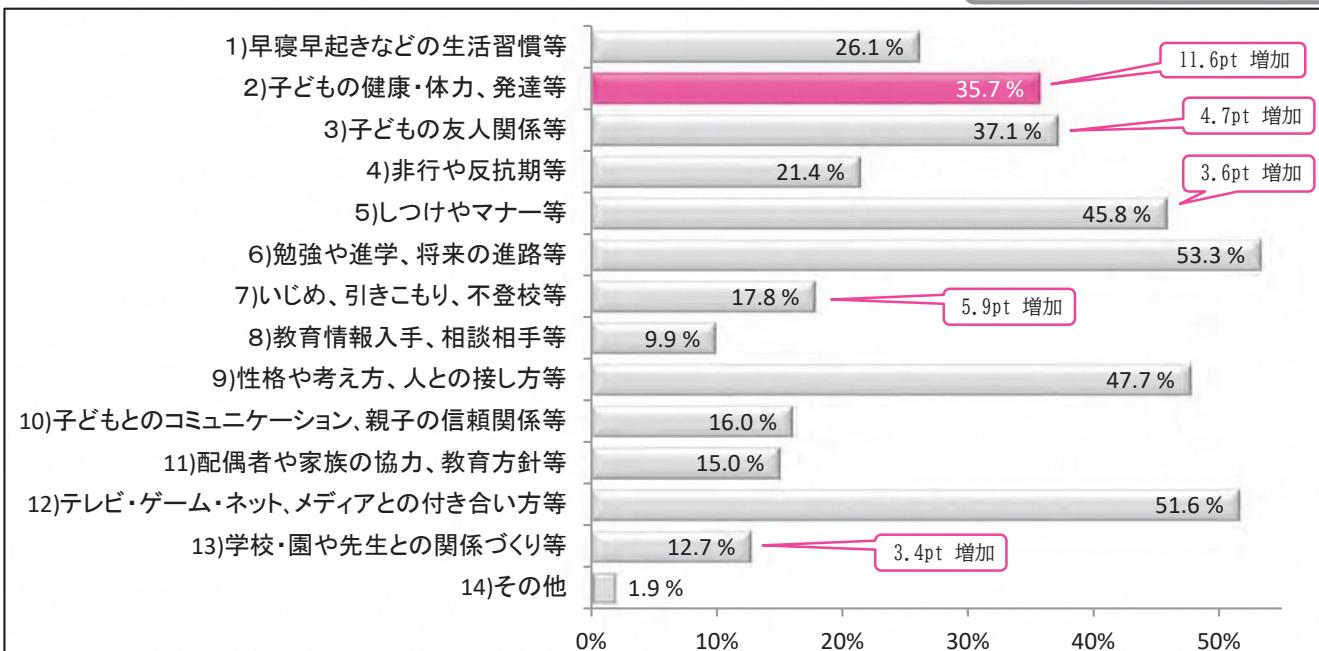


「非常にある」「多少ある」と回答した保護者 【R元】65.3% → 【R6】60.1%

★減少してはいるものの依然として60%を超える多くの保護者が悩みや不安を抱えていることが分かる。

#### 問4-2 どのような悩みや不安がありますか(複数回答)

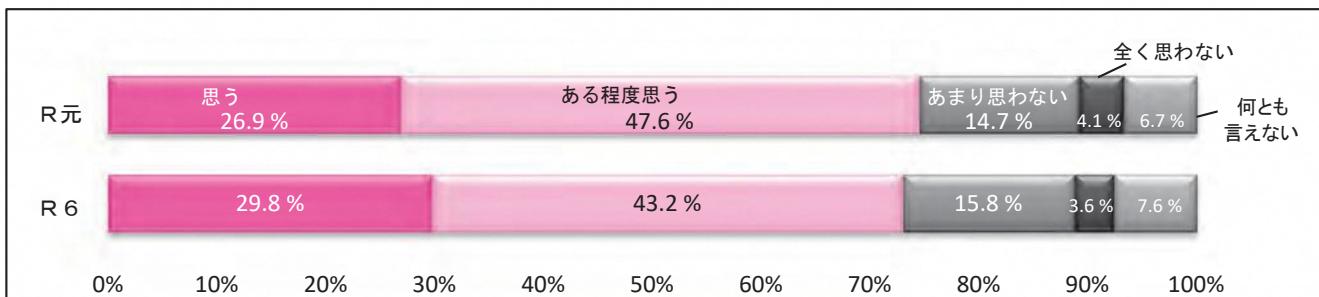
問4-1で「非常にある」「多少ある」と答えた保護者(全体の60.1%)による回答



★ 前回調査ではほとんどの項目で変化がなかったが、今回調査では 2)3)5)7)13)の5項目において増加が見られた。悩みや不安の内容が多様化する傾向が見られる。

★ 「12) テレビ・ゲーム・ネット、メディアとの付き合い方等」に悩みや不安がある保護者は、前回調査において 31.0pt の大幅な増加がみられ51.1%となっていたが、今回調査でもその割合は依然高いままである。

#### 問5-1 家庭教育について行政の支援は必要だと思いますか。

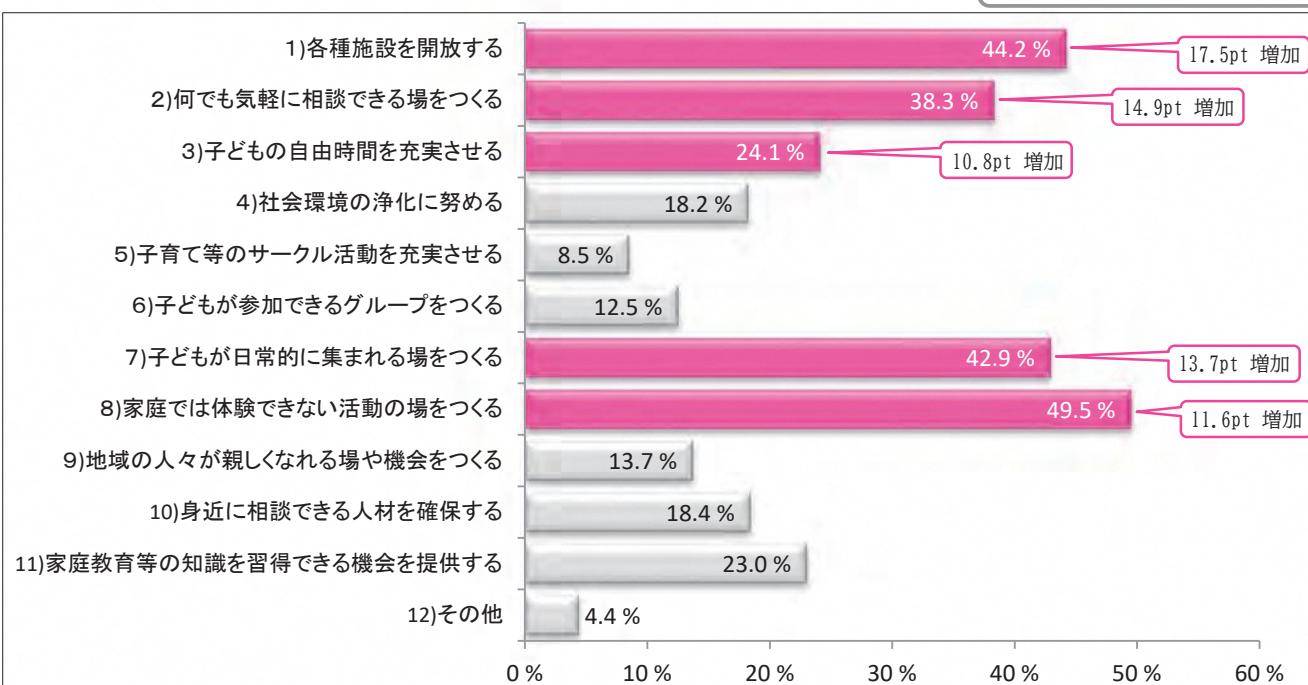


★ 「思う」「ある程度思う」と答えた保護者の割合はほぼ変わらないが、「思う」と答えた保護者の割合が増加しており、行政の支援を強く望む傾向が依然続いている。特に、高校生の保護者においてその傾向は顕著に見られる。

★ 「思う」「ある程度思う」の回答は、いずれの校種でも70.0%以上である。  
(幼児77.0% 小学生72.7% 中学生72.7% 高校生70.0%)

## 問5－2 家庭教育にどのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)

問5-1で「思う」「ある程度思う」と答えた保護者(全体の73.0%)による回答



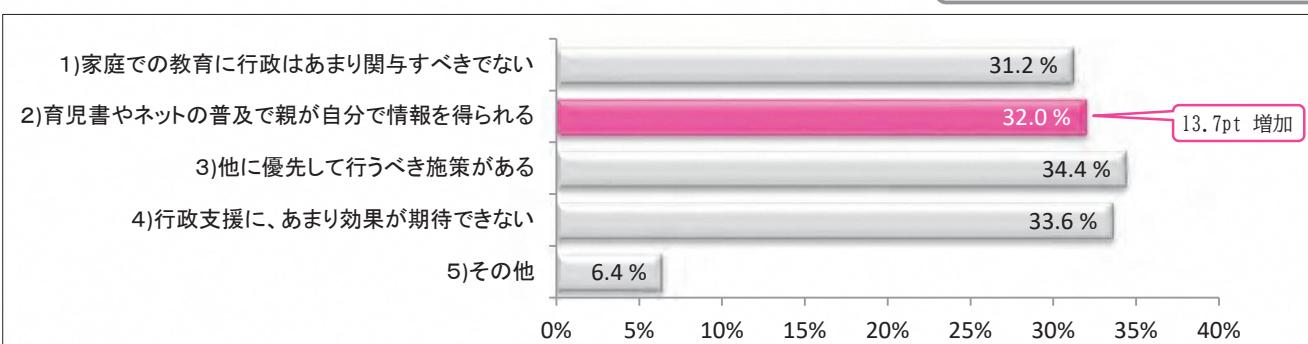
家庭教育に必要な支援について、前回調査では全体的に大きな変化はなく最大でも4.0ptの変動であったが、今回の調査では最大で17.5ptの増加があるなど大きな変動が目立ち、家庭教育支援への期待の高さがうかがえる。

★校種別で変化が目立った項目は次のとおり。

幼児「7)子どもが日常的に集まれる場をつくる」	23.2pt增加	【R元】31.3% → 【R6】54.5%
小学生「1)各種施設を開放する」	18.9pt增加	【R元】25.9% → 【R6】44.8%
中学生「2)何でも気軽に相談できる場をつくる」	25.1pt增加	【R元】18.7% → 【R6】43.8%
高校生「2)何でも気軽に相談できる場をつくる」	22.7pt增加	【R元】21.3% → 【R6】44.0%

## 問5－3 家庭教育に支援が必要ないと思う理由(複数回答)

問5-1で「あまり思わない」「全く思わない」と答えた保護者(全体の19.4%)による回答



「家庭教育について支援が必要ないと思う理由」について

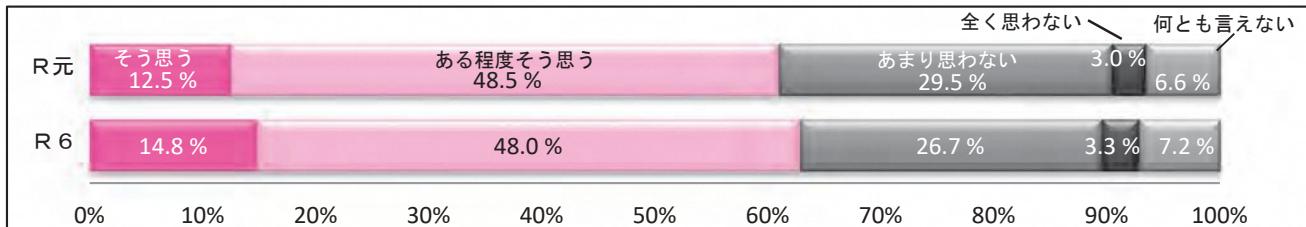
★前回調査と比較し変化が目立った項目は次のとおり。

「2) 育児書やネットの普及で親が自分で情報を得られる」 【R元】19.9% → 【R6】32.0 %

★「1) 家庭での教育に行政はあまり関与すべきでない」は、校種によって違いが見られた。

幼児 5.0pt 増加 【R元】35.0% → 【R6】40.0%
小学生 2.4pt 減少 【R元】31.2% → 【R6】28.8%
中学生 5.0pt 增加 【R元】21.9% → 【R6】26.9%
高校生 2.7pt 減少 【R元】36.0% → 【R6】33.3%

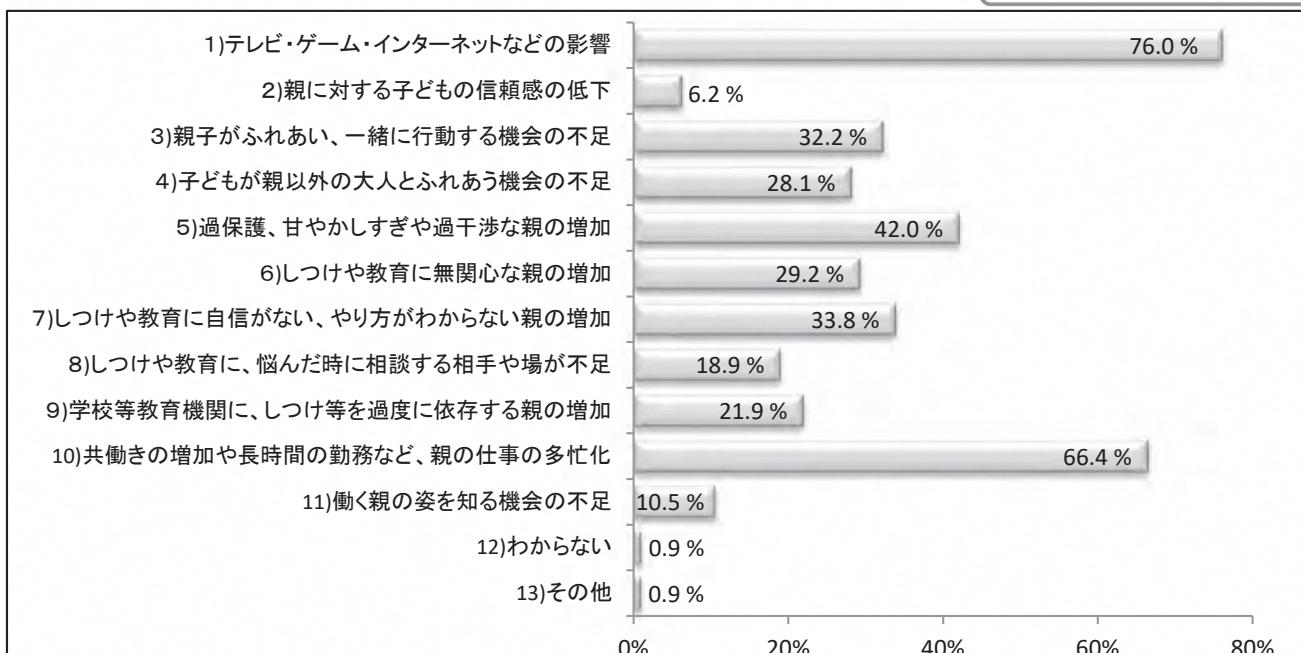
## 問6－1 「家庭の教育力が低下しているのではないか」という意見を、あなたはどう思いますか。



★「そう思う」・「ある程度そう思う」と答えた保護者が前回調査から1.8pt増加し、依然として60%を超えていいる。

## 問6－2 家庭の教育力低下の理由(複数回答)

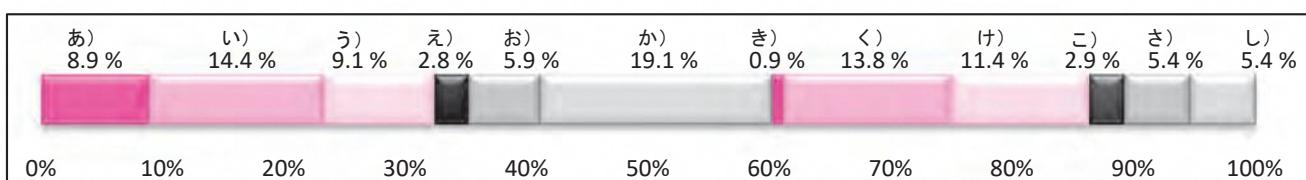
問6-1で「思う」「ある程度思う」と答えた保護者(全体の62.8%)による回答



★ 前回調査と同様「1)インターネットなどの影響」「10) 共働き増加・仕事の多忙化」が依然高い割合となっている。  
 ★ 「1)インターネットなどの影響」と「10) 共働き増加・仕事の多忙化」が30.0ptを超えるなど大きな変化が見られた前回調査に比べて、今回調査では大きな変化は見られず、最も大きな変化でも「1)インターネットなどの影響」の7.7pt増加であった。

## 問7 あなたは家庭教育に関して、次の各項目に関する情報について、どこから(誰から)得ていますか。

- |         |  |  |                                  |
|---------|--|--|----------------------------------|
| 【情報入手先】 | あ) 夫や妻<br>い) 友人、知人<br>う) 祖父母、親族<br>え) 育児雑誌、書籍<br>お) 新聞、テレビ、ラジオ | か) インターネット<br>き) 各種講座、研修会、講演<br>く) 学校(園)、PTA<br>け) 市町村の広報紙、回覧板<br>こ) 役場の窓口 | さ) パンフレットなどの公的発行物<br>し) 情報を得ていない |
|---------|--|--|----------------------------------|



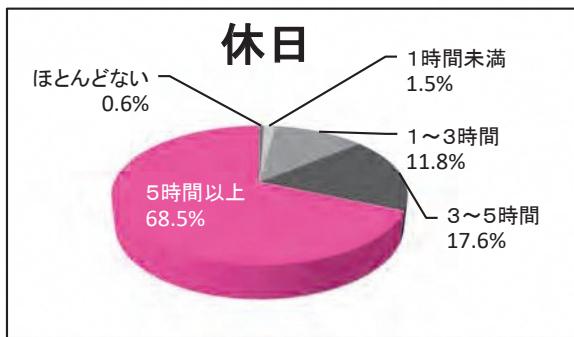
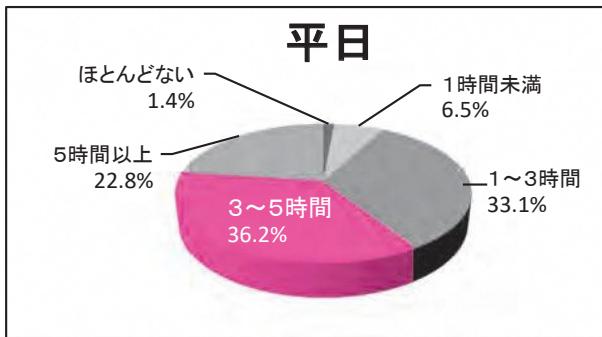
★項目ごとの主な情報入手先（）内は最上位項目

- |               |                 |                           |                 |
|---------------|-----------------|---------------------------|-----------------|
| 1) 生活習慣       | (祖父母・親族 46.6%)  | 6) 講座等学習機会                | (広報紙・回覧板 36.5%) |
| 2) 挨拶・しつけ・マナー | (祖父母・親族 57.0%)  | 7) 勉強・進学                  | (学校(園) 49.7%)   |
| 3) 遊び場・子育て施設等 | (インターネット 57.7%) | 8) 健康・体力・医療               | (インターネット 56.6%) |
| 4) 各種行政サービス   | (広報紙・回覧板 48.9%) | 9) コミュニケーション(友人・知人 41.6%) |                 |
| 5) 相談窓口・サークル  | (広報紙・回覧板 44.3%) | 10) 親子参加イベント              | (インターネット 49.4%) |

★情報入手先として「インターネット」以外の全ての入手先において減少傾向が見られた。

特に「新聞・テレビ・ラジオ」「各種講座・研修会・講演会」「学校(園)・教職員・PTA」が、全ての項目において減少している。

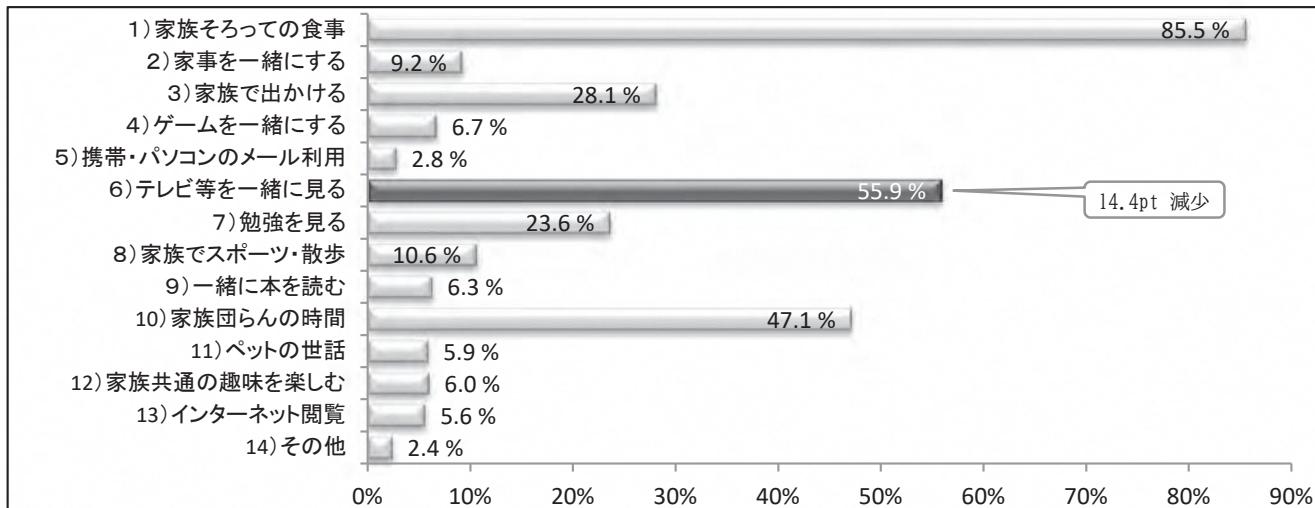
## 問8 子どもと一緒に過ごす時間はどれくらいですか。



★「1~3時間」が減少し、「3~5時間」が増加していることから、一緒に過ごす時間が長くなっている。

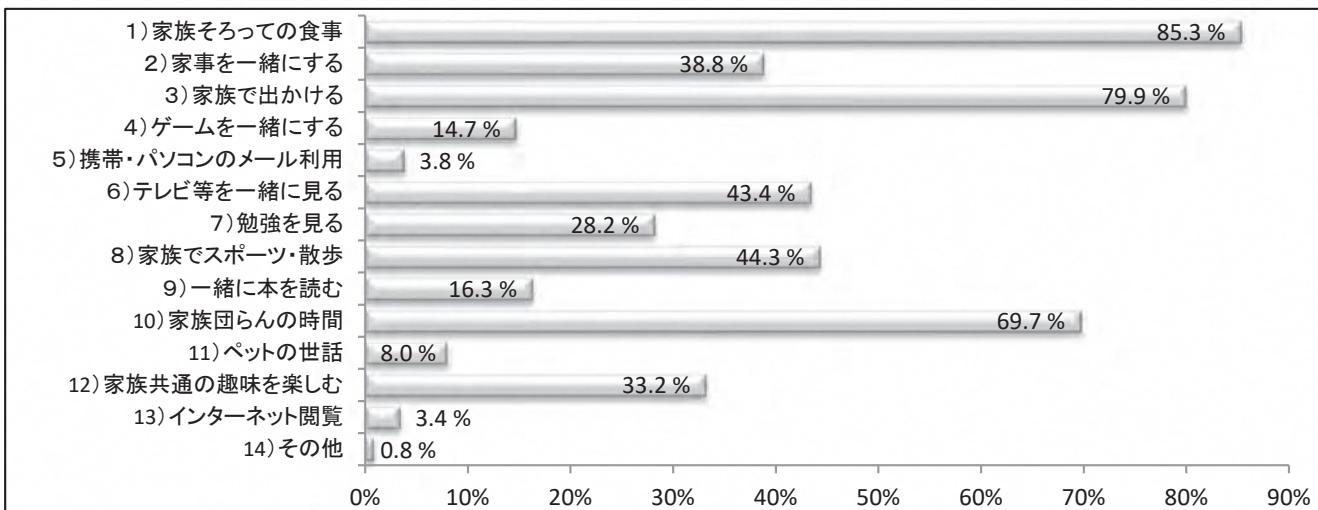
★「5時間以上」の割合が減少していることから、一緒に過ごす時間が短くなっている。

## 問9 平日、子どもと一緒に過ごしている内容は主にどのようなことですか。（3つまで）



★「6) テレビ等と一緒に見る」が14.4pt減少した他は、前回調査とほぼ変わらなかった。

## 問10 子どもとのコミュニケーションのため、一緒に過ごしたい内容はどのようなことですか。（複数回答）



★最も大きな変化でも「6) テレビ等と一緒に見る」の9.3pt減少で、すべての項目が前回調査とほぼ変わらなかった。